

こえ
聲

私のいたいこと



小篠 紀之さん
(与能)

この町に移り住んで思うこと

2018年9月に、私はこの土地に家を構えました。妻の実家が芳賀町であるということ、子育てするならばのびのび暮らせる土地がいいと思い、35年暮らした宇都宮市からの転入です。私が加入する自治会の諸先輩方は右も左も分からない私たち家族を優しく温かく迎え入れてくださいました。およそ4年暮らして懸念することがあります。年々減少する人口です。他地域では転入者への格安の空き家の提供や新規就農支援等で人口増加に成功している地域もあると聞きます。少しずつでもそういった動きを活発化していくことを私は芳賀町に望みます。今、この地に住む子どもたちが大学進学や就職で他の地域へ移り住んでも、やっぱり芳賀町に戻って暮らしたいと思ってもらえるような町づくりをしていくことが、私たちにとっても、子どもたちにとっても、明るい未来を築けることに繋がっていくのではないかと、私は思っています。



滝田 和子さん
(芳志戸)

住んでよかった芳賀町

私は共働きの家庭で育ち、芳賀町へ嫁いで45年となりました。3世代そろった家族のもと、自然環境豊かな町で子育てできたのも、家族が自分にできることを少しずつ手を差し伸べ協力してくれたおかげだと思います。幼少期の子どもたちを見守りながら一緒に遊んでくれた祖父母。里帰りの際には、必ず霊前に手を合わせる子どもたちの姿があります。コロナ禍が収束に向かいつつある状況ですが、失った時間と生活環境の変化には戸惑うばかりです。限られた時の流れのなかで、出会った人たちに感謝をしつつ、一定の距離を保ちながら、自身の人生の舵をしっかりとっていきたいと思います。次世代へと繋げるLRTの開通を心待ちにしております。



小林 将孝さん
(東高橋)

スタグフレーションから農業経営を守るために

町民の皆様・農家の皆様の支えあつての生活に感謝し、私はこの町に少しでも貢献したいと思い、現在は地元のJAで仕事をしております。

昨今の物価高騰の影響から色々な物が軒並み値上がりし、さらには農業を経営する際に使用する資材・肥料等も価格が上昇しているため、栽培した野菜・果物も販売価格を値上げしたいというのが現状です。ただし、単に販売価格を値上げする考えでは、お客様の購買意欲も低下しゆくゆくは食品ロスにも繋がってしまいます。

そこで、農業で使用する生産資材への助成金を行うのはいかがでしょうか。これにより、農業者の負担を軽減するだけでなく、青果物等の価格上昇を抑えられるため消費者の消費増大・食品ロス対策にも繋がってきます。

この不景気の世の中を乗り越え、芳賀町がより良い町になっていくことを期待しております。